

TIJ 日本語教育研究会通信

No.57 2015.6.3 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 /Fax:03(5607)4102
E-mail: tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



新年度、皆様の現場もまた新たな気持ちでスタートを切られたことと思います。TIJでも今までの国の学生たちに加え、新たにミャンマー、インドネシアからも新入生を迎えました。

2月25日に行ったTIJ文化発表会では、プレゼンテーションの部、スピーチの部、川柳の部に分かれて、学生たちはそれぞれ自分の学習成果を発表し、なかなか変化に富んだ楽しい発表会となりました。今号には、審査員をやってくださった来賓の感想、学生の発表内容、指導者からのご報告を掲載します。

【本号の内容】

1. 「TIJ文化発表会」に参加してー審査員の立場から
2. 文化発表会発表内容ープレゼンテーションの部
3. 文化発表会発表内容ースピーチの部
4. 文化発表会発表内容ー川柳の部
5. 文化発表会指導者の報告
 - ①プレゼンテーション指導のご報告
 - ②スピーチを指導して
 - ③初めての川柳

「TIJ文化発表会」に参加して

2015年5月25日 今福民生

2015年2月15日新小岩地区センター4階大ホールにおいて、今年もTIJの文化発表会が開催されました。私も僭越ながら審査のお手伝いということで参加させていただきました。

その時の感想をここに述べさせていただきます。

当日は文化発表を祝うようによく晴れ渡った気持ちの良い気候でした。発表する人はもとより、先輩のスピーチを聞く人も、みんなが不安と期待とがないまぜになったような顔して始まるのを待っていました。

第一部はプレゼンテーション：私が驚いたのは皆さんが選んだテーマです。

大学の講座で言えば社会学のようなテーマの概説…「ヤクザ」「二次創作」、また「箆笥」をキーワードにしたエッセイ風スピーチ、お出かけ案内のようにまとめた「Enjoy in Japan」「日光」……どれも面白い視点から話がなされていて興味深く聞かせていただきました。短時間のプレゼンテーションで気を付けなければならないことは、ストーリー展開と結論がハッキリしていることです。一番いい例が新聞、雑誌に掲載される「4コマ漫画」です。

たった4つの絵で「起・承・転・結」と言われるストーリー展開がなされ、キチンと「言いたいこと」が現れていることです。これは今後留学生の皆様が大学で、社会で、あることについて、あるテーマについて話をするときには一番大切なポイントです。これが準備できたら、次は言葉の選択です。「現代社会においては・・・」というのか「今の世の中では…」というのかで聞く人の感情は微妙に変わります。そして最後は話し方、スピード、声の大きさ、強弱の付け方、目の配り方…話すこと自体の技術です。

少々、堅苦しいことを言いましたが、どのチームも要点は理解していたように感じられました。

その要点が本番できちんと実行できるかどうかは…発表会前の練習、普段からの意識（キチンとまとまったことを話すという）にかかってきます。発音やイントネーションより大切なことです。

第二部は「川柳」でした。これはまさに4コマ漫画を「言葉」で表すようなものです。絵ではありませんから言いたいこと、ストーリーも重要ですが、どの言葉を選ぶかということで、大きく印象が変わるものです。スピーチよりも難しい、ともいえるかもしれません。しかし、発表された皆さんは、自分の知っている「言葉」を使って素直に表現していることがうかがえました。もっと「言葉を選ぶ」「自分は何を言いたいのか」に集中し、凝縮することができるようになれば更により川柳が作れるでしょう。

第三部は選抜された5名の方のスピーチ。これはどの方も「選ばれるだけのことはある」と合点のゆくスピーチでした。なぜそれほど感じるのかは前にも述べているよ

うに「言いたいことがハッキリしている」からです。もちろん発表の仕方：発表技術も上手ですがそれ以上に「言いたいことがある、これが言いたい」ということが何にもまして重要です。

この5名の方はそれを再認識させてくれました。

最後に結果を気にして鬱々するのではなく、どんなことでも、どんな状況でも「明るく、楽しく、前向きに＝あ・た・ま」で過ごすことを心掛けてください。発表会で皆様の初々しい話しぶりに明るい将来をみさせていただきました、ありがとうございました。

All flowers of tomorrow are in the seeds of today!

明日の花、みんな今日の種の中！

文化発表会発表内容

プレゼンテーションの部 第1位

ザ・筆筥

皆さんには思い出が溢れる大切なものがありますか。私は最近あるドラマを見ました。その中にこのようなシーンがありました。

「これね、お嫁に来る時に持ってきた筆筥なの。一緒にこの家に来た筆筥だから、私、父さんに言えないこと、いつもこの筆筥に向かって言うのよ...」と、ドラマの中のお姑さんがお嫁さんに幸せそうに話していました。

そうですね。伝統的で丁寧に職人たちが心をこめて作った筆筥は、ただの木製家具ではなく、一種の思い出や愛情となります。そして、時々母から娘へ、娘から孫娘へ、時空を超えてこの「愛」と「思い」が伝えられます。

しかし、この伝承は時の流れとともに消えつつあり、しかも、スピードを求める現代人の私たちがこの流れを加速させて、今や自然に消滅しそうな状態です。

古い筆筥には、色々な思い出が仕舞い込まれています。温かい感動と愛着、それらを託す心のよりどころです。それで、本日は皆さんと一緒に伝統と巧妙な工芸を探究しながら「筆筥の世界」を歩いてみましょう。

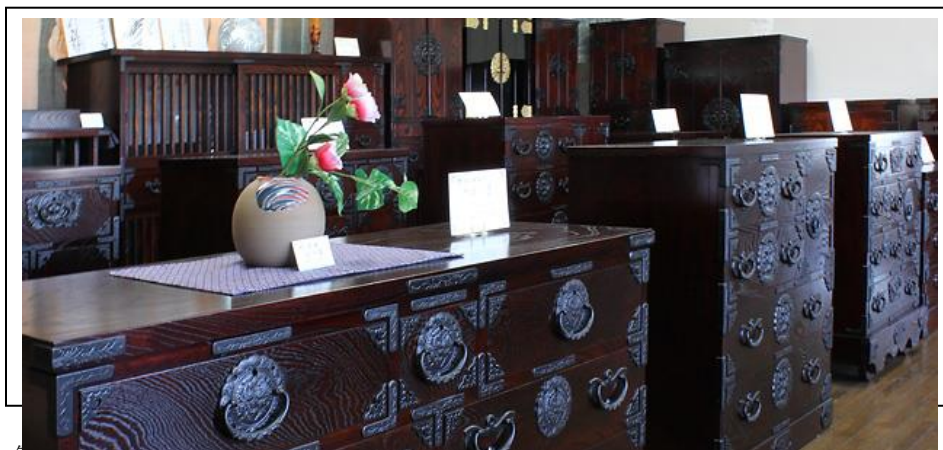
「筆筥」をめぐるの物語

1、職人の技

日本の筆筥は長い歴史を持っています。そして、日本が誇る伝統工芸である筆筥には職人の匠の技が生かされています。

葉書一枚ぐらいの隙間のために細かい調整を繰り返す技術や、微妙な湿度と気温の差による条件を考えて作る技術など、木の特性を熟知した匠の技があって初めて作ることができるものです。職人たちは自分の仕事に時間をかけて精進し、理解を深め、木に敬意を払います。それで、心をこめて筆筥に感情と命を注ぎこんでいますね。

木工職人の作業が終わったら金具職人、塗り職人と続きます。



2、製造過程

実は、一つの箆笥を作るには何年間もかかります。ここでは、桐たんすの製造過程ちょっと見ましょう。

まずは適した桐の丸太を選んで仕入れます。次は、3年間天然乾燥させます。それから、木をきれいにして玉切りします。その後、木取り、組立て、引き出しや扉加工、塗装と金具付けがありますね。

3、箆笥の表情

また、金具は箆笥の表情とも言えます。ここでは仙台箆笥の飾り金具を例にその魅力を感じてみましょう。

仙台箆笥の最大の特徴とっていいのが、飾り金具の存在です。一般的に和箆笥には、引き出しを開閉するための「引き手」や「錠前」と呼ばれる金具がついています。一番目を引くのが、箆笥の正面に据えられた「錠前」の文様です。では、一緒に写真を見てみましょう。

まずは錠前金具です。牡丹、竜、唐草に菊、家紋などの形がありますね。そして引き手にも凄く手が込んでいます。繊細な飾り金具はまるで芸術のようです。ちなみに、中国の伝統的な箆笥には凝った彫刻が輝いています。

こちらの写真を見て実家で静かに眠っているおばあちゃんの箆笥を思い出しました。表面に彫られた百合は歳月の流れを感じさせないくらい月の光のように和らかに輝いています。まるでおばあちゃんの、あの美しく、忘れがたい思い出を守ってくれているようです。

そのように、一つの箆笥を作るには何年間もかかりますね。そして、自然に馴染むあの素晴らしい職人の技に感動しました。これを見ていると、なんか自然と人間が調和したような気がしますね。これでこそ人々の大切な想いを受け入れる心のよりどころになるのではないのでしょうか。

箆筒についての考え

皆さん、どうですか、この小さな箆筒の旅は？この魅力に惹かれましたか？

スピードだけを重視している 21 世紀にも、このような伝統と自然を合わせた職人技が残っているのですね。一種の柔らかな衝撃だと言ってもいいですね。

いい材を使い、材を知る職人が手がける箆筒は、何代にもわたって使い続けることができるといいます。それ故に、箆筒の価格は決して安いとはいえません。この高嶺の花のような値段にみなさんが尻込みします。しかし、箆筒は文化の一つとして多くの人に知ってほしいです。例えば、箆筒についての見学はどうでしょう。自ら職人たちの技を見て箆筒の魅力を感じながらきっと何か思うと信じています。

箆筒に潜んでいる真の意味と職人たちのこだわりが「効率が一番」という現代人の私たちに伝統というものを深く考えさせるのではないのでしょうか。

以上で、発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。



プレゼンテーションの部 第2位

ザ・ヤクザ

皆さん、ヤクザと言うとどのようなことが頭に浮びますか？やはり乱暴で違法なことばかりしているというような人だと思いませんか。近頃日本最大のヤクザ組織〇〇組が薬物売買は今後一切しないというプラスのイメージのニュースが中国で報道され、メディアに称賛されましたが、本当はどうでしょう。では今回は現代のヤクザの本当の姿を紹介していきたいと思えます。

日本は世界中で唯一法律的にヤクザという存在を認めた国で、警視庁の調査によりますと、全国でヤクザを本業とする人は約6万人ほどで、そのうち日本最大のヤクザ組織「〇〇組」の人数は1.16万人もいるという話です。今の経済不況や政府の厳しい取締まりの下で、ヤクザの総人口は近年間大分減ってきましたが、すでに国の経済にも浸透したヤクザを完全に根絶するには、まだまだ不可能だと言っていいでしょう。

ではヤクザは主に何をしてお金を稼ぎ、組織を維持してきたのでしょうか。「〇〇

組」を参考として紹介します。「〇〇組」が成立してから今年まで丁度 100 年が経ちました。主に急激に発展を遂げたのは第二次世界大戦後の 1945 年からです。戦後の日本は社会秩序がかなり乱れ、政府もそれを完全に治める力がないという背景がありました。「〇〇組」はその時に「民間警査」という役を演じ、一般民衆の安全を確保、その代わりに人からお金をもらいます。特に「〇〇組」がいる神戸市の灘区では「第二次世界大戦から早く立ち直れたのは〇〇組のおかげ」と言うお年寄りが多いようです。ある程度外国人による略奪や犯罪から日本社会を守る機能を果たしたと言えます。

その後、1992 年から「暴力団防止法」が実施されて以来、「〇〇組」は組織の経済構造を転換し、集团的経営で、株式や不動産、そして建設事業にも進出し、かなりの経済的利益を生み出しました、その他にも内部に奨学金を設定、高学歴なメンバーを募集し、海外留学にも派遣するということです。

韓国の新聞によりますと「〇〇組」の今年の総収入は約 800 万ドルに達していて、それはフィリピンの年間外資準備金よりも高く、タイの一年の国家予算にも匹敵する金額だそうです。とはいえ、その中の半分以上は、賭博や水商売、そして薬物の売買の違法行為で儲けたお金です。

今のヤクザグループは、イメージチェンジを求め、町の祭りに積極的に参加し、住民と触れ合い、街道の掃除などの地域に貢献することもし始めました。そして、震災後に被災地に赴き、救助活動や町の再建にも参加し、一見とても立派な行いには見えますが、実は政府から町再建費をもらうのが目的だという説もあります。

悪いことばかりしている人が、急にいいことをしたことで、みんながすぐ見方を変え、称賛します。逆に善良な人が、悪いことを一つしただけでも、今まででいいことは全部否定され、人から非難されます。最後に言いたいのは、暴力団を美化することは禁物です。本当に社会に見認められたいのであれば、そういう違法な行為を根本的やめない限り、それは叶わないでしょう。

スピーチの部

私の夢

ホアン バン タン

私の夢は、将来、自分の会社をつくることです。35 歳までにベトナムで人材紹介会社を作りたいと思っています。ベトナム人を日本の会社に紹介する会社です。ベトナムの経済はまだ発展の途中ですが、日本の会社がだんだん増えています。アジアで一番の日本に留学すれば、たくさんの方が勉強できると思ったので、日本に来ました。日本へ来てから、生活のために何でも自分でするようになりました。家事は大変ですが、家族と会えないことが一番つらいです。でも、いつもがんばっています。

TIJ では日本語の勉強だけじゃなくて、日本の文化や生活もたくさん勉強しました。スリランカや韓国の友達もできました。でも、日本人の友達はまだいません。短期大学では、ぜひ日本人も留学生もたくさんの友達をつくりたいです。いろいろな国の文化を知るのはおもしろいですし、ベトナムの文化も知ってほしいです。

短期大学に入学したら、経営に必要な知識を勉強したいです。日本語の勉強もしっか

りがんばろうと思っています。そして、できれば短期大学を卒業したら大学に進学して企業経営についてさらに学びたいです。

去年の11月12月にひどいかぜをひいて、いい留学生活を続けるには健康はとても大事だとわかりました。スポーツをすると気分がすっきりして体の調子もよくなって勉強をがんばれますから、これからもスポーツを楽しみながら夢のために勉強をがんばっていきたいと思います。みなさんもがんばって自分の夢を実現してください。



2千円と1時間

グエン ズイ カン

皆さん、こんにちは。私は中級3のカンです。今日私は一つのお話を紹介したいと思います。ぜひ聞いてくださいね。

ノビタさんはサラリーマンです。彼には5歳の息子がいます。名前はノビスケです。以前は毎日ノビタさんは仕事が終わった後、息子と遊んだものでした。でも、幸せな10年が過ぎ、ノビタさんの蜃気楼は消えました。

離婚してからというもの、ノビタさんは仕事ばかりしていました。息子のお世話をする時間はありませんでした。ある日、ノビタさんは遅く帰りました。ノビタさんがうちに帰ると、ノビスケはいつからそこにいたのか、いすに座って待っていました。

「パパ、ぼくは質問があるんだ。ちょっときいてもいい？」

「うん、なんだい？」ノビタは答えました。

「パパ、パパの時給はいくらなの？」

「それはおまえに関係がない。なんでおまえはそんな質問をするんだ」

「知りたいんだ！」

「2千円だよ」お父さんは怖い口調で言いました。

その後、ノビスケは黙ってしまいました。しばらくして、「パパの千円をかしてくれない？」と言いました。

険しい声でノビタさんは返事をしました。

「おまえは私からお金を借りておもちゃを買いたいんだね。それはだめだよ。部屋にもどってすぐに寝なさい！」

ノビスケは部屋へ黙ってもどりました。

たばこに火をつけてノビタさんはよく考えました。「ノビスケはおとなしくていい子だ。いったい何を買いたいんだろう」

その後、ノビタさんは息子の部屋をあけてみました。

「ノビスケくん、ごめんね。これはノビスケくんの千円だよ」

息子はお金をもらってにっこりしました。とつぜんノビスケはまくらの下からたくさんの細かいお金を取り出して10円、20円と数え始めました。

「おまえ、もっとお金がほしいのか」

すると、ほこらしげな顔で、

「パパ…。これは2千円です。ぼく、パパの時間を買ってもいい？このお金でパパと遊んでもいい？」

・・・・・・・・・・・・・・・・

「そうだったのか…」

お父さんは小さい子供を抱きしめました。

私の話を聞いて、みなさんはどう思いましたか？ みなさんが親になったとき、このような日が来ないように願います。

ありがとうございました。

驚いたこと

李 夢霞

皆さん、おはようございます。私は李と申します。今度のスピーチのテーマは「驚いたこと」です、それでは、スピーチをさせていただきます、よろしく願います。

私は一月に日本へ来ました、来てからの一ヶ月半は驚くことばかりでいろいろな感想があります。

最初の印象は日本の道も、部屋も、お店も狭いと思いました！でも、とてもきちんとしています。店の中に様々な商品がいっぱいですが、もし何かを探したら、すぐ見つけられます。みんな規則を守って、きちんと整理しますから、いいことだと思います。それに特に電車の到着時間はすごく正確なこと、女の子のスカートがとても短いことです。ストッキングもはいてないし、寒くないの？と驚いてしまいますね。

しかしながら、最も不思議なことはアルバイトの募集です。これはとても厳しいと思います。まず、電話をかけたら、相手にたくさんの質問をされました。それで、履歴書を書きました。最後は面接です、面接は2回以上もあります、厳しいですね。中国では正社員はそういうことが必要ですが、アルバイトでは必要ありません。でも、このような厳しい募集をしたら、いい人が集まって、完璧な店になると思います。私は電話をかけた時、相手の話している言葉の意味がわからなかったり、履歴書の書き方を知らなかったりしたこともあります。ずいぶん悩みました。私は面接も二、三回行きました。失

敗もありましたがぎりぎりまであきらめなかったのでやっと最後はうまくいきました。とても嬉しかったです。学生アルバイトの募集は厳しいですが、これは一方から見れば個人の面接の経験をたくさんすることは将来正社員になる時に役に立つと思います。

以上はほんの一部です。まだ一ヶ月半ですから、時間が経つにつれて、さらにいろいろ面白いこと、驚くことを経験しながら、生活に慣れて行くと思います。これからの生活が楽しみです。

では、これで終わりにさせていただきます、御清聴を感謝いたします。



自信

楊 秋燕

今日、私はいままでで出逢ったすべての人に感謝の気持ちを伝えようと思います。ここまで成長させてくれたことに感謝する気持ちでいっぱいです。

日本での留学生活は私にとって、冒険です。日本にくる前の私は両親から一步も離れたことがありませんでした。また、前の私は、家で家事などあまりしていなかったし、しようとも考えていませんでした。当たり前のように、自分の役目は勉強すること、食べること、寝ることだと認識していました。そんな私なので、家族のみんな勿論、私自身もこれから私の一人の生活に対して、心配していました。

そして、自ら日本へ留学することを決めて、日本に来た後、私はようやく成長し始めた。自らすることの大事さを学びました。家賃などは、期限までに払います。綺麗な環境で過ごすために、家事をします。一人で日本まで来たこの冒険のおかげで、自分を自ら動かない人から、自ら動く人に変化させることができました。今、本当に大人になったことを実感しています。

そして、あっという間に、進路を決める時期になって、急に焦り始めた私達を、先生方は親身になって、指導してくださいました。厳しい時は火のように恐ろしく、優しい時はこの上なく優しい、こんな先生に私達は出会いました。「最後は自分で決めなさい」とおっしゃった時の先生の声は、今でも耳に残っています。私達は日本語のみならず、多くの貴重なことを身に付けることができました。もうすぐ卒業します。うれしいことですが、やはり複雑な気持ちが湧いてくるでしょう。これからもやると言ったからには

頑張る、そして、やりたいと思ったことはやり続ける、という信念をもとに充実した日々を送っていきたいと思います。

日本に来て、自分に自信が持てるようになりました。先生方誠にありがとうございました。

人間の絆

鄭 歓

気がついたら、体がもう雪の中に倒れこんでいるところだった。「痛くない?」「大丈夫? タクシーを呼んでくるよ」キミとジャズコウ二人ともしっかりと私を支えてくれて、テーは大きなショックを受けたようにぼかんと口を半開きにしていて。係員、警察、パトカー、見たこともないカメラマンが驚いた様子でじっと私を見ていた。何が起きたのか? 立ち上がってみると右足が凍ってしまったように全然動かさなかった。少し頭を持ち上げると、猛吹雪で拳みたいな雪がすさまじい勢いでぶつかってきた。

今年のゆく年くる年という年越し交流イベントで知り合った私たち四人は二カ月前バレンタインデーと一緒に白川郷へ旅に出ると約束したのだ。国籍がそれぞれ違うし、今回は四人グループの初めての旅だった。他の三人とも内向的な性格、しかも私の日本語も滅茶苦茶だから、雰囲気はどうなるだろうかと少し気にかけていた。

料金メーター上のスクリーンは深夜1時半、気温マイナス2度とはっきり示していた。右側に座っているキミは疲れすぎて、うとうとしているけど、手は私の松葉杖をしっかりとつかんでいた。身長たった150cmだけど、動けない私を背負って階段を上り降りするなんて、見た目のイメージと全く違うたくましい女の子だ。私が倒れた際も、その場にいた人たちに的確に指示をしたり、落ち着いて冷静に行動し、驚いた。

やっとペンションに着いた。雪に襲われた谷の中、黄色いライトが灯っているペンションは家の柔らかい雰囲気を漂わせていた。ドアを開くや否や、もう5時間ほど待っていた男性二人が飛び出てきた。荷物を受け取りながら、「お帰りなさい」とテーは言った。この人は寡黙な性格で、普段の会話も五つの言葉しかないのに、今回は六つ目の言葉を言ってくれて、なんと暖かい響きだろうと感じた。「ハナハナ、頑張れ。あそこは凍ってたんだね、足に気をつけてね。」ジャズコウは私を支える一方、熱心に注意してくれた。その夜、ライトアップを見るために、幅が狭い山道で人がぎっしり詰まって、うっかりすると崖に落ちるほど危ない状態だった。ジャズコウはずっと私の手を繋ぐ傍ら、足で雪をこすり取って立つスポットを作ってくれた。途中、彼は何度も危なく滑って転びそうになったが、一度も手を離さなかった。

ペンションのベッドの窓から見ると、雪がもっと激しくなっていた。雪嵐の夜明けで、静かな雪の谷が見えた。旅は心、世は情け。仲のいい友達ほど、別に仲良くなろうとしたわけではなくて、いつ仲良くなったのか分からないくらい、いつの間にか友達になっていたりするものだ。最初の心配は余計だったな。人間はいつも小さいことでしみじみと感動させられるものだ。こういう感情は唯一無二、お金より大切な、正に人間の心にあるものだ。それは人間だけの持つ絆ではないだろうか。日本へ来てたったの4カ月だが、色々な人にお世話になって、本当にありがたい。言いたい言葉が一杯あるが、何も

言い出せない時には、「感謝」の気持ちだけで十分だと思う。それも人間の絆なのではないだろうか。



川柳の部

第1位 仕事ある いっぱいやるけど お金ない
第2位 あっ美人 見すぎて人にぶつかった
その他 おいしそう 食べたおかしは ネコのえさ
会えなくて・・・気持ちはどこに あるのかな
作文を書くときずっと くしゃみ出る
白い雪 輝く夜空 星光る
すごいな 自分に恋した 20年
双葉生え 花咲き乱れ 虹の恋



文化発表会指導者の報告

プレゼンテーションの部を指導して －「個の力をさらに高めてもらいたい」－

北内直子 (TIJ)

現代の若者にとって、コンピューターは子供のころから慣れ親しんでいる文具のようなものです。留学生も同様で、特に日本のアニメを見て育った世代は、オタク文化にも精通しており、その日本語運用力の高さ、オタクならではのパソコンスキルの巧妙さは、私のように一世代上の人間には羨ましい限りです。

今回、プレゼンテーションの指導を担当したクラスは、全員が中国出身で、半数は大学院進学志望。授業で日本語をコントロールする必要が全くないくらいレベルの高いクラスでした。素晴らしいプレゼンを見せてくれるだろうと、期待も高まります。しかし…日本語学習の集大成となるべき発表会で問題点が露呈するとは思っていませんでした。

最初の問題点は、発表の内容を決められないことでした。与えられて書くことには長けていても、自分からテーマを探して、それを掘り下げることが不得手のようでした。情報を集める技術はあっても、身近な狭い世界にしか目が向いていないので、社会への意識が希薄なのです。準備をはじめて2週間後に出てきた内容はすべて、「〇〇の紹介」というものでした。どう発表するか聞いてみると、写真を集めて紹介するという。どうしてこれを紹介したいのか、この紹介にどんな意味があるのか、と問うと「面白そうだから」。私の不満そうな様子に彼らも困惑していましたが、もともと頭の良い人たちなので、徐々に発表の意義を考えながらテーマを絞っていきました。

次の問題点は、チームを組んでいても完全分業制で、チームメイトの動向には無関心だったことです。原稿執筆、ppt作成、発表、pc操作と効率よく分担し、個人作業に入っていきます。クラス内の中間発表で奇妙な光景を見ました。発表者はその時初めて原稿を目にし、それを「読む」がpptの画面と噛み合わない。動画が高度すぎて意識がそちらに集中してしまう。原稿執筆者がとうとうオタク文化を語り、部外者には理解できない。日本語が未熟で発表が拙いのではなく、チームとして機能していないことがわかったのです。この状態を異様だとも思っていない無関心さに驚きました。個人のスキルが高く質のよい内容であっても、それらをうまく結集していかないと作品として完成しません。無関心なのか、個人の領域を侵さない彼らなりの了解なのかわかりませんが、苦言を呈さざるを得ませんでした。

後日、学生たちに言われました。自分たちの消極的な姿勢に先生が怒ったのは理解できるし申し訳ない。今まで自分たちは与えられた課題をいかにレベル高くこなすかを求められてきたし、そうすることが安全だった。日本に来て、その姿勢は変えるべきだと思うが、このクラスは日本ではない。でも、進学先では変わるから心配は無用だ、と。

これまで発表会の指導では、日本語力の低さややる気のなさという問題に直面してきました。今回は日本語レベルも学力も高いクラスなので素晴らしい作品を期待していましたが、そこからは別の現実が見えてきました。自分の力を高めようと努力を惜しまな

い学生たちは素晴らしいと思います。だからこそ、仲間と協力すればその力は倍増し新たな世界が開けることを今回の発表で会得してもらいたかったのです。優秀な彼らが進学先の新しい環境で、そのように成長してくれることを心から信じています。

スピーチの部を指導して

渡部尚子 (TIJ)

今年の文化発表会では中級2、中級3、上級1の各クラスの代表が一名ずつスピーチをするプログラムが設けられました。まずは、クラス代表を選出しなければなりません。1月末あたりから、「記述」の時間を利用してスピーチの原稿を書き、2月10日にクラス予選、という日程を組みました。早い学生ですと原稿は、1回の授業時間内に書き上げ、教師に提出してきて、チェックを受け、あとは、自分で練習に入ります。原稿を覚えて、すらすら話せるように練習を続け、クラス予選直前に教師とマンツーマンで発音や話し方などの指導を受け、予選に臨む、ということになります。

ここで問題がありました。クラスの学生の中の3名がどうしても原稿を書こうとしないうのです。原稿を書く時間をクラス内で与えていても、考えている、とか、もう少し、とか言って持ち帰り、いつまでたっても提出してこないうちに、もう予選の日が迫ってきました。3人とも、日本語については似たタイプの能力を持っています。日本語ができないわけでは決してありません。むしろ聞く、話すことに関しては、N1相当の力を持っています。それなのに、作文は本当に苦手、母国語でも書いたことがないなどと言っていました。日本のアニメやゲームが大好きで、これらを通して日本語も習得してきたという経緯を持っています。

とうとうクラス予選の日となりました。クラス予選では、皆でくじをひいて、発表の順番を決めます。書いていない彼らも結局原稿未提出のまま、くじを引き、参加しなければいけないと伝えました。この予選は、文化発表会のために、一人の代表を決定する「予選」ですが、全ての学生にとっては「本番」でもあります。各自が評価表を持って、自分以外全員のスピーチを評価し、コメントも書くようにしました。

この日まで、他の人のスピーチ内容は知らないわけですから、どの学生も興味を持ってスピーチに聞き入っていました。原稿のない3人も自分たちの番が来たら、前に立ち、スピーチをしました。耳から学んだ、N1レベルの力ですから、なかなかのものです。

Aくん：自分は国の高校で、何のために勉強するのか全然わからず、まじめに勉強しなかった。今、日本に来て本当にあのときのことを反省している。無駄にした3年の分を自分は日本でがんばろうと本気で思っている。

Bくん：日本へ来て、色々な事があった。アルバイト先で財布を無くしたり、トラブルもあったが、今、自分は日本で何をやるか、その目標が少し見えてきたように思う。

Cくん：1月に交通事故にあって、先生方や、看護師さんほか、本当に沢山の皆様にお世話になり、やさしくしてもらったことが心に残っている。この事故を通じて、自分は色々な人に助けられたこと、そして国の両親がどんなに一生懸命、自分を支えてくれているかがよくわかった。等々。

クラス全員の評価の結果、クラス代表は、李夢霞さんに決定しました。1月に来日し

たばかり、まだ新鮮な日本での生活への驚きが語られて印象的でした。一方、どの学生のスピーチもそれぞれに彼らの今の気持ちを表現した、素敵なものばかりでした。日本に来て、ごみの分別のシステムに本当に驚き、そのルールを守ろうと一生懸命だけれど、かなり戸惑ったDさん。日本はとても安全なので、自分の国にいたときのように外を歩くとき周囲の人に注意を払うことがなくなった。そして、安全な国に住む日本人たちは自分以外の人にあまり関心を持たず、声もかけないことに最近気づいた。日本人たち、寂しくないですか？と問いかけた、メキシコからのEさん……。1回きりのスピーチで終わるのはもったいなくて、結局クラスのミニ文集にまとめることにしました。

スピーチ原稿のある学生たちについては、原稿をパソコンに入力し、レイアウトするだけで、問題なく文集の原稿ができました。問題は、原稿のない3名でした。いい内容だったから、思い出して書いてみて、と再三促したのですが、結局書けないまま。川柳を出して来たり、まったく別物の短い文を書いたり。あの幻のスピーチを録音しておけばよかった、と後になってつくづく後悔しました。

新人類という言葉はすでに使い古された言葉ですが、今までの私たちの感覚とは違う学び方で日本語を習得しつつある学生たちが増えています。書くことは苦手でも、発信したいことは十分持っています。彼らへの指導の方法を考えさせられた今年のスピーチ予選でした。

初めての川柳

佐々木真佐子 (TIJ)

今回の文化発表会、中級の出し物についてはすぐに決まりというわけにはいきませんでした。上級3は当然のようにプレゼンテーション、さてそれ以外のクラスは一体何をすればいいのか。去年はお国紹介や子供の歌の披露をした学生達。前回と同じようなものではつまらないという声もあり、また長い文を書くのが大変な学生もいるので、つい「川柳は？」と口走っていました。川柳のように短いものならやってみる気が起こるのでは、という単純な発想でした。

とりあえず、クラスで試しに作らせてみようということになり、早速以前卒業前のクラスで使ったプリントを引っ張り出してきました。上級向けのプリントを簡単なものに作り直し、授業で紹介してみました。

まずは、川柳がどんなものか分かってもらう為、子供向けの本に載っていた「母と子で作るカレーが甘くなる」という句を紹介しました。お母さんと子供と一緒に仲良く作ることで辛いカレーが甘くなる、このほのぼのとした温かい感じは分かったようだったので、このように日常生活の中での感動を短い文の中に込めてうたうということを伝え、ユーモアやウィットのあるサラリーマン川柳や子供の川柳をいくつか紹介しました。

サラリーマン川柳では夫婦もの「出張を見送る妻はなぜ笑顔」「離さない！10年経つと話さない」や「床屋行く金暇あれど髪がない」はすぐに意味が分かって面白がっていました。難しかったのは「イブの夜、派手な服着てただ帰る」。イブは恋人とデートしたりすることは知っていても、この見栄を張る気持ちは伝わりませんでした。また韻を踏んだ「一戸建て手が出る土地は熊も出る」という句で、音で楽しめることも伝えかけたのですが、都会で一戸建てを買うことの難しさを教えてもピンと来ない感じでした。

とにかく5・7・5のリズムで気持ちを伝えるというのは何となく分かったようでしたので、身近な「アルバイト」「日本語の勉強」「恋愛」というお題で考えてみようということにしました。「店長はやさしい？給料はどう？」と色々質問してみましたが、「難しい〜！」の声、声、声。無謀なことをさせていることに半分気付きながら強行しました。書き始めた人の句を見てみたら、、、。5・7・5のマスを作っておいいたのですが、ただマスを埋めればよいと考えたようで、意味の切れ目など考えずに書く人、漢字交じりで書いて全く5・7・5になっていない人もいました。やはり皮肉を込めたり、滑稽なものを作るのは難しいようでしたが、どうにかこうにか学生が出してきたものは「恋人に別れられたら心死ぬ」「給料が高いですからやめません」「日本語は面白いけど漢字やだ」「アルバイトしている人はよく寝ます」といったものでした。一回目は結局一つも作れない学生もいましたし、他のクラスも苦戦しているようでしたので、川柳は失敗だったかしら〜と、言い出しっぺの私は暗い気持ちになりました。

それでも、3回目になると、生活のことから離れて「日が昇り万物の命始まるよ」といったスケールの大きい句を書く学生もいました。また、ある学生は風が止んだ時に桜のおいがする感じを書きたいと、川柳作りに興味を持ったふうでした。(手伝って「風が止みほのかな香り桜咲く」という句を作成。)

投票で発表会に披露する句を決めましたが、皆一票は自分の句に入れていましたのでがんばって作らせた甲斐がありました。結局選ばれたのはNさんの「会えなくて…気持ちはどこにあるのかな」、Qさんの「作文を書く時ずっとくしゃみ出る」でした。一句2分という短い発表時間でしたが、卒業前の最後の発表会なので全員ステージに上がろうということで、2つのグループに分かれてみんなで発表するという形にしました。グループでペンネームを考え、句について一人ひとりが何か質問をするということにし、また、全体の司会をする人、PCを操作する人を決めて練習しました。何度も川柳の読み方の例を示してみましたが、スライドの文字の動きに合わせてゆっくりきれいに発音するのは難しかったようです。パワーポイントの背景の写真探しに時間がかかったり、急にBGMを流すことになったりと、前日までバタバタしていましたが、一応出来上がりました。

賞を取った中級2Aはコント風のパフォーマンスと手書きでの発表でしたが、その素朴な感じ、面白みがストレートに伝わり、とても楽しいものでした。同じく賞を取った上級1は発表者のはっきりとした読み方が良かったと思います。残念ながら我がクラスはそつなくまとめすぎた感もあり、はっきりと伝わらなかったようでもあり、賞を取ることはできませんでした。結局チャレンジに終わりましたが、しばらくは授業中ことあるごとに「会えなくて…気持ちはどこにあるのかな」と言う学生もいたりして、卒業前の一つの思い出になったのは確かなようです。またやりたいという学生の声に最後はこちらがほのぼのとさせられました。